

血液免疫病学セミナー

平成 29 年 11 月 18 日 (土)・19 日 (日)、秋保温泉ホテルニュー水戸屋にて、血液免疫病学セミナーを開催しました。これは、当科の一大イベントとも言えるもので、今年で 12 回目を迎えます。医局員、研修医、看護師の他、多数の学生さんの参加もあり、総勢 60 名の集いとなりました。



会場のホテルニュー水戸屋は
丁度見頃の紅葉に彩られていました



Opening remarks



まずは張替秀郎教授より、ユーモアに溢れた開会のご挨拶をいただき、会場はたちまち和やかな雰囲気になりました。



担当の市川聡先生からは、「何か 1 つでも覚えていただければ」とのお話がありました。

アンサーバットの練習です。

Q 今年 24 時間マラソンを走ったのは？



場内は大爆笑。
すっかりリラックス
ムードへ。



Clinical pearls

「Clinical pearls」と題した最初のセッションでは、
現場での診断・治療に役立つ知識あれこれを、アンサーパットを用いたクイズ形式で解説。
血液、免疫ビジュアルクイズを、それぞれ大地哲朗先生、井樋創先生という今年の新入局メンバーが
担当しました。



参加者は、真剣にメモを取りながら、
あるいは笑いにどよめきながら、
緩急交えたプレゼンテーションに耳を傾けていました。



Case conference

ここからは、参加者を4つのグループに分けて症例検討が行われました。

【Case1】（免疫） 「乾癬症関節炎の疑いで紹介された症例」 永井 泰地先生



抗 MDA5 抗体陽性筋炎

【Case2】（血液） 「不明熱！？」 市川 聡先生



IVLBCL



次の Case3、4 は免疫グループと血液グループの見事なチームワークにより、病態解明に至った症例です。

【Case3】（免疫／血液）「血管炎 → MDS」

星 陽介先生→市川 聡先生

【Case4】（免疫／血液）「RA → MTX 関連リンパ増殖症」

藤井 博司先生→小林 匡洋先生







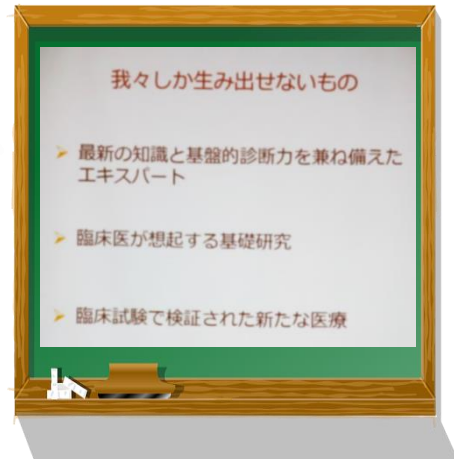
Meet the expert ～血液・免疫病学の最前線と展望～

始めに、白井剛志先生より、スタンフォード大学での約2年半に亘る留学体験記をお話いただきました。



空が青いんです

地理的な説明に始まり、スタンフォード大学におけるポスドクの現状や実験室の様子、当時の研究内容等を紹介していただきました。また、留学にはどのような種類があるのか、語学、金銭面について、更に文化の違いにより生じたトラブルなどのお話もあり、留学について考える良いきっかけになったことでしょう。



最後に張替教授より、ゲノムと創薬についてのお話をいただきました。次世代シーケンサーの開発により、ゲノム解析が急速に進み、疾患特異的な遺伝子異常をターゲットとした分子標的薬が開発されています。また、その変異の遺伝子から、予後因子や疾患単位の分類がわかることから、ゲノム解析は診断にも多く用いられています。しかし、実際の臨床では、ゲノム解析だけでは解決できない形態学的異常があり、病態の全てを説明できるわけではありません。だからこそ、臨床の教室としては、自分たちしかできないことがある（上：スライド）というお話は、大きな励みとなるものでした。

第2部は、夕食をとりながら、お楽しみの交流タイムです。

昨年に引き続き、司会は石井悠翔先生。美味しいお食事に舌鼓を打ちながら、満開の笑顔のひと時を過ごしました。



恒例のビンゴゲーム。名刺交換のようなアレンジ・ビンゴで、カードの裏に、相手の名前を書き込んでいきます。
ディズニーリゾート入場券、松坂牛の商品券など豪華景品が目白押し。



当選された皆さん！おめでとうございます♪



来年も共に学び、楽しみましょう。

皆様のご参加をお待ちしております。